

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ カトウ ミキ 氏 名 加藤 美紀	職 名 准教授 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 博士（教育学） （大学名） 上智大学 （取得年月） 2013年3月
--------------------------	---------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 授業内容・方法の工夫 (1) 講義「キリスト教学 I A・I B」	2011.4～現在	① 学生が自己省察力を身に付けられるように、毎時間の講義の始めに、宗教音楽を聴きながら立腰により瞑想する時間を設けている。 ② 学生が聖書に親しむことができるように、毎時間、聖書の一節を板書して解説するとともに、各自聖書を手に取り開いて読む時間を設けている。 ③ 学生が同世代の仲間の考え方や感じ方を共有できるように、毎時間2名の学生に「感動したエピソード」についてスピーチさせている。 ④ 学生がイエス・キリストの福音を各自の生き方と結びつけられるように、現代世界の諸問題に関する DVD 視聴を取り入れている。 ⑤ 学生が授業全体の流れを 1 枚のプリントでつかめるよう、キーワード穴埋め書き込み式のレジュメを毎時間作成し、活用させている。 ⑥ 学生の理解度を把握し、次回以降の講義内容を調整できるように、学生から毎時間リアクション・ペーパーを提出させ、入念に検討している。 …その結果、学生からの授業評価は大変良好である。
(2) 講義「教育学概論」	2013.4～現在	① 学生が教育学の概念を整理して理解できるように、毎時間パワーポイント資料を作成し、視覚的に訴える講義を実践している。 ② 学生が自らの教育経験の意味を理解できるように、毎時間2名の学生に「心に残る先生」についてスピーチさせている。 ③ 学生の問題意識を喚起するために、毎時間頻繁に発問し、多くの学生に発言させながら対話形式で講義を進行している。 ④ 学生が世界各国の教育事情について具体的に理解できるように、関連する適切な DVD 教材の視聴を毎時間取り入れている。 ⑤ 学生の理解度を把握し、次回以降の講義内容を調整することをねらいとして、毎時間リアクション・ペーパーを提出させている。 …その結果、学生は興味をもって意欲的に取り組んでいる。

(3) 講義「キリスト教と教育」	2016.9～2022.3	カトリック大学でこどもと教育について 4 年間学んできたことの集大成として、本学部の目指す「人間の理解と援助」の具体像をキリスト教的価値観で統合することを目指す講義である。聖書に通ずる教育思想を紹介して、自らの教育経験を総括する課題に取り組みさせる。こうして学生各自が理想とする教師・学校・授業・教育のイメージを構築できるように指導する。
(4) 輪講「教職実習演習(中高/栄養)」	2014.9～現在	5 回の授業を通して、自らの教育実習の経験を振り返りながら、学校で課題となっている不登校やいじめ、保護者対応、専門連携などについて、ケーススタディーの分析とロールプレイング等を実践し、生徒理解や学級経営能力を身につけ、教師としての力量形成を図る。
(5) 輪講「国際福祉論」	2018.4～2018.7	キリスト教精神に基づき、心理福祉の国際活動を学びながら、国や地域を限定することなく幅広く正解の心理福祉について学ぶことを目的とする。
(6) 輪講「グローバル・スタディーズ基礎演習Ⅰ」	2013.4～2018.7	新入生への導入教育として、加藤はスタディ・スキルズ演習を担当する。具体的には、大学で学ぶために必要な技法として、ノートのとり方、レポートの書き方、情報収集の仕方、読書法、パワーポイントを使用した発表の仕方、などをグループワークの演習形式で身につける。
(7) 演習「グローバル・スタディーズ総合演習Ⅰ・Ⅱ」	2011.4～現在	「生きる意味」を見出すことをテーマとして、古今東西の幸福論、人生論、死生観を学び、人間の生き方について考える。特に、第二次世界大戦中の強制収容所体験を綴った『夜と霧』を講読し、著者の精神科医フランクルの心理学を検討する。一年間の演習を通して、各自の人生の課題を発見し、探求する方法を学ぶとともに、ゼミ生との討論を通して、自分の考えを発表する力を身につけ、自分を表現することを目指す。
(8) 演習「グローバル・スタディーズ総合演習Ⅲ・Ⅳ」	2011.4～現在	地球規模問題群を中心として、現代世界をめぐる諸問題についての理解を深め、解決の糸口を探るための手がかりとなる理論を学び、対処の可能性についてゼミ生と議論する。これにより、よりよい世界をつくるために人間は何ができるのか、そして、私は何ができるのか、自分なりの使命と希望を見出すことを目指す。併せて、受講生の問題意識に関連したテーマについて各自研究を進め、その成果をプレゼンテーションする。
(9) 卒業論文指導	2011.4～現在	各自が設定した研究課題について適切な方法で情報収集し、文献およびフィールドワーク調査を実施し、その結果についての的確に分析し、自らの考察を加えながら妥当な結論を導き出せるように、かつ、これらの過程を論文作法に則って表現できるように、適宜文献を紹介しながら、定期的に論文執筆を指導して、卒業論文完成に導く。
2. 教育方法・教育実践に関する発表 (2) 本学教職員合同研修会講師「遠隔授業の取組事例について」	2020.9	非常時の遠隔授業の体験から平常時のハイブリッド授業の可能性を探ることを目的として、2020 年前期オンライン授業の実践報告を行った。
3. ボランティア教育	2019.4～11 2017.8～現在	ノートルダム大聖堂募金をコーディネートし仏大使館へ寄付した。 光が丘スペルマン病院ボランティアへの参加募集を支援した。

4. 国際教育	2018.8	ASEACCU(東南・東アジアカトリック大学連盟)国際学生会議(広島大会)に参加する学生6名を引率した。
5. 宗教教育としての修道院招待	2011.12～ 2019.12	本学在校生・留学生・卒業生を修道院クリスマス会に招待した。
6. 海外研修引率	2018.3	GS 学科必修科目「異文化体験」のため、1名の教員と共に、学生30名を引率して香港・マカオ研修を実施した。
	2019.3	イタリア・フランス研修の団長として参加者25名を引率した。
	2020.3	イタリア・フランス研修の団長として参加者24名を引率した。
7. オープンキャンパス	2018.6	オープニング企画「白百合について知ろう！」を担当した。
	2018.6	グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2019.6	オープニング企画「白百合について知ろう！」を担当した。
	2019.6	グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2020.6	グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。
	2020.12	オープニング「クリスマスの喜びが倍になる白百合の魅力」を担当した。
	2021.6	オープニング「白百合の魅力」と模擬授業を担当した。
	2022.12	オープニング「白百合の魅力」と模擬授業を担当した。
9. 講話の印刷発表	2018.3	「天国の住人とのつながりを生きる」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第8号(89-92頁)掲載
	2018.3	「学問のすすめ」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第22号(147-154頁)掲載
	2019.3	「聖書にみる二つのいのち」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第9号(99-103頁)掲載
	2019.3	「フランクルの『夜と霧』を読む」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第23号(65-100頁)掲載
	2020.3	「イエスの誕生物語にみる福音」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第10号(101-107頁)掲載
	2020.3	「カトリック系教育機関で福音を伝えるためのQ&A」仙台白百合女子大学

10. 巡礼遠足の企画・実施	2021.3	カトリック研究所編『論集』第 24 号(125-124 頁)掲載 「ストーリーとしての建学の精神を生き継ぐ」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第 25 号(59-75 頁)掲載
	2022.3	「幸せになるための法則はあるのか」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第 26 号(167-174 頁)掲載
	2018.11 2019.11	平泉・水沢への東北キリシタン巡礼遠足を企画し学生 38 名を引率した。 大籠・石巻への東北キリシタン巡礼遠足を企画し学生 30 名を引率した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文]						
1.「スピリチュアリティを育むカトリック大学の巡礼旅行」	単著	2018.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 22 号		仙台白百合女子大学 編	1-23 頁
2.「コーリング意識を育むカトリック大学のキャリア教育」	単著	2019.8	『カトリック研究』第 88 号		上智大学神学会編	29-48 頁
3.「教会の宣教におけるカトリック大学の使命と可能性」	単著	2021.8	『カトリック教育研究』第 38 号		日本カトリック教育学会編	33-72 頁
4.「カトリック大学のキャンパス・ミニストリーにおける福音宣教の在り方」	単著	2022.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 26 号		仙台白百合女子大学 編	1-15 頁
5.「授業実践の改善を目指して—教職課程科目を中心に—」	単著	2023.2	『教職課程研究センター報』第 2 号		本学教職課程研究セ ンター編	25-30 頁
[著書]						
1.『〈生きる意味〉の教育—スピリチュアリティを育むカトリック学校—』	単著	2020.5.24	教友社			全 462 頁
2.『アンジェラスの鐘—希望への招き—』	単著	2022.10.7	オリエンズ宗教研究所			全 272 頁

3.『いのちと霊性—キリスト教講演集—』 [その他]	共著	2023.2.11	教友社			全 474 頁
1.エッセイ「神からのコーリング(召命)のしるし」	単著	2019.4	キリスト教月刊誌『福音宣教』		オリエンズ宗教研究所	全 22 回
2.連載記事「アンジェラスの鐘」	単著	2020.1～2021.12	キリスト教月刊誌『福音宣教』		オリエンズ宗教研究所	34-40 頁
3.エッセイ「“待降節”と掛けて“再生”と解く その心は“ルルドの泉”」	単著	2020.11	キリスト教月刊誌『カトリック生活』12月号		ドン・ボスコ社	各 5500 字 4-6 頁
4.エッセイ「よりどころに立ち帰る」	単著	2021.11	聖書週間「聖書に親しむ」リーフレット		カトリック中央協議会	
5.エッセイ「闇が光に変わるとき」	単著	2022.12	キリスト教月刊誌『カトリック生活』1月号		ドン・ボスコ社	2-5 頁
6.エッセイ「人間の愛、神の愛—「たましい」と「しるし」—」		2023.2	キリスト教月刊誌『家庭の友』3月号		サン・パウロ	8-10 頁
7.連載記事「大人向け福音解説」		2022.4～現在	キリスト教週刊誌『こじか』		オリエンズ宗教研究所	毎号 1000 字 程度
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

I 学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1.「カトリック系教育機関で福音を伝えるための Q&A」	2018.9.7	日本カトリック教育学会第 42 回全国大会 ラウンドテーブル話題提供(於白百合女子大学)
2.シンポジスト提題 2:「青年期の生きる意味を支える宗教教育の可能性」	2019.2.23	日本カトリック教育学会特別企画Ⅱシンポジウム(於上智大学)
3.「カトリック教育は青年期の自己肯定感を育めるか」	2019.8.31	日本カトリック教育学会第 43 回全国大会 ラウンドテーブル話題提供(於南山大学)
4.シンポジスト提題 3:「自己肯定感を育むスピリチュアリティの教育—統合的教	2021.10.30-31	ソフィアシンポジウム「教育とヒューマニズムの邂逅」シンポジウム(於上智大学)

育への架け橋として— 4.シンポジスト提題 2:「かけがえのない魂への配慮」	2022.6.18	カトリック大学キリスト教文化研究所第 34 回協議会シンポジウム (於南山大学)
---	-----------	---

II 所属学会

学会名	役職	入会年月(西暦)
日本カトリック教育学会	全国理事	2002.4
東北教育哲学教育史学会		2005.4
日本質的心理学会		2005.4～2023.5
教育哲学会		2013.4
日本スピリチュアルケア学会		2021.7
日本宣教学会		2022.10
上智人間学会		2022.11

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)

助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本カトリック大学連盟	2020	カトリック学術奨励金 共同研究	カトリック教育における自己肯定感—自己に関する神学と教育学の相互参与的実証研究(代表者:原敬子、共同研究者:武田なほみ、寺尾寿芳)	

(3)特記事項

<p>[講話等の講師]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012.9 日本カトリック教育学会第 36 回全国大会・自由研究発表第1セッション司会 於長野清泉女子大学</li> <li>・2013.2 本学カトリック研究所主催 2012 年度第 3 回研究会・講師 演題「生きる意味を教えることはできるか」</li> <li>・2014.1 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「生きる意味と聖書の物語」</li> <li>・2014.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「聖書と現代人のスピリチュアリティ」</li> <li>・2014.9 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味の教育」講師 第1回「フランクフルに学ぶスピリチュアリティの育成」</li> <li>・2014.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味の教育」講師 第2回「自己物語の創造と生きる意味の発見」</li> <li>・2015.1 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「エニアグラムとイエスの9つの顔」</li> <li>・2015.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「フランクフルの思想と生きる意味」</li> <li>・2015.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「フランクフルの思想—生きる意味を求めて—」講師 第1回「生きる意味への闘い」</li> <li>・2015.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「フランクフルの思想—生きる意味を求めて—」講師 第2回「ロゴセラピーと&lt;魂への配慮&gt;」</li> </ul>
---

- ・2015.12 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「ユングのタイプ理論と自己実現」
- ・2016.6 本学人間発達研究センター主催第5回研究会・講師 演題「“生きる意味”の教育を目指して」
- ・2016.10 仙台白百合学園高等学校修養会・講師 演題「平和—よりよい世界を築くために—」
- ・2017.1 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味と魂—フランクルの思想から—」講師 第1回「ロゴセラピーと魂の癒し」
- ・2017.1 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味と魂—フランクルの思想から—」講師 第2回「現代人の救いとスピリチュアリティ」
- ・2017.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「日本人の死生観と復活のイエス」
- ・2017.3 東北地区 SGH 課題研究発表フォーラム講師(コメンテーター) 於本学
- ・2017.7 光が丘スペルマン病院ボランティア養成講座・講師 演題「生きること、生かされていることの意味を問う」
- ・2017.9 本学カトリック研究所特別講座・講師 演題「フランクルの『夜と霧』を読む」
- ・2017.10 仙台白百合学園高等学校修養会・講師 演題「平和をつくる人は幸い」
- ・2017.10 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会黙想会・講師 演題「人生に YES と言うために—ロゴセラピーに学ぶ—」
- ・2018.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「死を超えるいのちへの希望」
- ・2018.3 白百合カフェ講話・講師 演題「聖書に学ぶ人生肯定法」
- ・2018.3 東仙台教会黙想会・講師 演題「過ぎ越しの神秘を生きる」
- ・2018.5 長野清泉女学院短期大学静修会・講師 演題「“愛”って何?～キリスト教を身近に」
- ・2018.7 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・講師 演題「『夜と霧』に学ぶ“生きる意味”」
- ・2018.7 仙台赤門短期大学看護学科「人間学」講師 演題「看護を支える人間観—生きる意味とスピリチュアルケア—」(～現在)
- ・2018.9 日本カトリック教育学会第42回全国大会・自由研究発表第1セッション A 司会 於白百合女子大学
- ・2019.3 東北地区 SGH 課題研究発表フォーラム講師(コメンテーター) 於東北大学
- ・2019.4 ラボ教育センター東北支局講演会・講師 演題「こどものための未来教育—自己物語の創造と生きる意味の教育—」
- ・2019.9 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・講師 演題「フランクルのロゴセラピーに学ぶ“生きる意味”」
- ・2019.10 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちが輝くために」
- ・2019.10 聖ウルスラ学院英智小学校静修会・講師 演題「希望をもって生きる」
- ・2020.10 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちが輝くとき」
- ・2021.9 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・講師 演題「カミュ『ペスト』にみる不条理の生き方」
- ・2021.10 白百合女子大学修養会・講師 演題「いのちを輝かせて生きる」
- ・2021.10 聖ウルスラ学院英智高等学校静修会・講師 演題「あなたは愛されるために生まれた」
- ・2021.12 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちの輝き 神の愛」
- ・2022.1 本学カトリック研究所主催 2021 年度第 3 回研究会・講師 演題「カミュ『ペスト』を読む—不条理を生き抜く—」
- ・2022.9 日本カトリック児童施設協会東北ブロック職員研修会・講師 演題「世界で一つだけの魂のケア」
- ・2022.10 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちが輝くために」
- ・2022.10 聖ウルスラ学院英智高等学校静修会・講師 演題「希望の扉を開く」
- ・2022.10 八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校静修会・講師 演題「絶望のあるところに希望を」
- ・2023.2 児童養護施設 ラ・サール・ホーム園内研修会・講師 演題「かけがえのない魂のケア」
- ・2023.2 NPO 法人 生と死を考える会教養講座・講師 演題「ヴィクトル・フランク—苦難に臨む人間の態度とは—」

- ・2023.2 NPO 法人 スピリチュアルケア研究会ちば 講演会・講師 演題「生きる希望を育むスピリチュアルケア」
- ・2023.3 仙台白百合学園学園研修会・講師 演題「建学の精神の源泉に立ち帰る」
- ・2023.4 郡山ザベリオ学園教職員研修会・講師 演題「いのち輝く学校を目指して」
- ・2023.5 児童養護施設 仙台天使園職員研修会・講師 演題「命のケアと魂への配慮」
- ・2023.5 郡山ザベリオ学園キリスト教講演会・講師 演題「いのちを輝かせて生きる」

#### [大学管理運営上の実績]

- ・2014.4～現在 宗教委員会委員長
- ・2014.4～現在 カトリック研究所所長

#### [学外の活動]

- ・2013.4～現在 カトリック大学キリスト教文化研究所協議会会計監査
- ・2019.9～現在 日本カトリック教育学会全国理事
- ・2020.7～現在 IDE 大学協会東北支部実行委員会委員
- ・2021.4～現在 仙台放送番組審議会委員

#### [メディア報道]

- ・2019.4.16 NHK 仙台放送局『てれまさむね』「ノートルダム大聖堂火災、その時、加藤美紀さんは」
- ・2019.4.17 NHB 東日本放送『チャージ！』「ノートルダム大聖堂再建への祈り」
- ・2019.4.17 『日本産経新聞』夕刊「日本から仏へ復興祈る」
- ・2019.4.17 『産経新聞』朝刊「きっと再建できる/復旧祈りたい 日本文化人らエール」
- ・2019.11.24 『カトリック新聞』「ノートルダム大聖堂再建のための募金活動」
- ・2021.8.31 『河北新報』朝刊「宮城の大学ゼミナール探訪」
- ・2022.3～7 『河北新報』夕刊「まちかどエッセー」8 回連載
- ・2023.1.28 『産経新聞』朝刊「『ひふみん』の言葉に支えられて…次女が語る父、加藤一二三・九段の素顔

#### [受賞]

- ・2018.6.8 日本カトリック大学連盟学術奨励金「研究奨励賞」受賞
- ・2021.8.28 日本カトリック教育学会「学会賞」受賞